

講義名	スポーツ組織論			授業形態	
担当教員	青山 将己	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3 時間		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	
主題と概要					
近年ではスポーツの多様化に伴い、スポーツを取り巻く組織にも変化と適応が求められている。スポーツ組織が効率的に変化し、適応していくには、多角的な視点を持ったマネジメントが必要である。本授業では、スポーツ組織の基礎的概念を学ぶとともに、多様化するスポーツ組織のマネジメント方法について理解することを目的とする。また、様々な事例をもとに、現場での問題点や解決策について議論する。					
到達目標					
本授業における到達目標は、以下のとおりである。 1) スポーツ組織に関する基礎的な知識を習得できるようになる。 2) スポーツ組織に関する現場での事例を理解し、問題点や解決策を見つけることができるようになる。 3) スポーツ組織を効果的にマネジメントする方法を習得できるようになる。					
提出課題					
授業のおわりに、その日のポイント・動画の感想等のミニレポートをレスポにより、提出する。また、プレゼンと期末レポートを実施する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
毎回の授業において、前回授業の振り返りを行う（Kahoot!を使用）。その際、提出されたレスポンの内容に関する講評を行う。					
評価の基準					
プレゼン（40%）、期末レポート（20%）、出席（遅刻）・レスポ回答（ミニレポート）・受講態度（40%）					
履修にあたっての注意・助言他					
遅刻者は、開始後15分以内とし、静かに着席すること。講義中の質問は加点する。授業中の私語は厳禁で、使用を指示しない限り、スマホ使用を禁止とする。					
教科書					
.特になし.					
参考図書					
.スポーツの組織文化と産業.		横山勝彦ほか	晃洋書房		4771024006

その他			
プリント資料は必要に応じて配布する。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. スポーツ統括団体 3. トップスポーツ組織 4. スポーツ組織のマネジメント 5. スポーツ庁 6. スポーツ庁（プレゼン準備Ⅰ） 7. スポーツ庁（プレゼン準備Ⅱ） 8. スポーツ庁（プレゼンⅠ） 9. スポーツ庁（プレゼンⅡ） 10. 法人 11. ゲストスピーカー 12. 公民連携 13. 公民連携（プレゼン準備Ⅰ） 14. 公民連携（プレゼン準備Ⅱ） 15. 公民連携（プレゼン）			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐	ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習：2時間（自習のシラバスを確認し、参考文献、ネット等でその内容を事前に把握する。） 復習：2時間（授業における配布資料に再度目を通り、学んだことの振り返りを行う。）			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
本授業を通して、健康分野の組織論に関する基礎知識を身につけ、健康・スポーツ関連産業の理解を深めることができることから、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
考える授業を導入し、授業中に質問し、解答したことを加点する。また、レスポンの内容を吟味し、質問や疑問に対して、回答するようにする。			
実務経験の有無及び活用			
マスターズスポーツイベントの運営、イベントにおける質問紙調査の実施と分析など。			
備考			